

「究極的な核廃絶」主張

平和記念式典で菅首相

菅首相は6日、広島市で開かれた平和記念式典であいさつし、「究極的な核廃絶」実現を主張しました。核兵器禁止条約に向けた交渉開始が課題になっているときに、これに逆行する「究極廃絶」にしがみつく姿勢を示すものです。

菅首相は、昨年、日本が国連総会に提出した「核兵器の全面的廃絶に向けた共同行動」決議案が米国を含む過去最多90カ国の共同提案で圧倒的多数で採択されたことなどをあげ、「核軍縮・不拡散分野における国際的な議論を主導しています」と語りました。

その上で菅首相は「66年前ここ広島を襲った核兵器の惨禍を、人類は決して忘れてはならず、二度と繰り返してはなりません」と述べながら、「日本国を代表し、唯一の戦争被爆国として、究極的な核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向け、日本国憲法を順守し、非核三原則を堅持することを誓います」と言明しました。

また、東電福島第1原発事故に触れ、「事故の早期収束と健康被害の防止に向け、あらゆる方策を講じてきた」「事態は着実に安定してきています」などと、根拠のない楽観論をふりまきました。

原子力の『安全神話』を深く反省「するとして、エネルギー政策の『白紙からの見直し』を改めて唱えながら、『原発の安全性確保のための抜本対策を講じる』、原発への依存度を引き下げ、『原発に依存しない社会』

をめざしていく」と言うだけで、期限を切って原発から撤退する考えのないことを示しました。

なぜ再び「究極」なのか

この1年で新たに亡くなった被爆者は5785人、平均年齢は77歳。生きていくうちに核兵器のない世界を実現したいとの被爆者の思いは切実です。6日、菅首相が広島・平和記念式典で唱えた「究極的な核廃絶の実現」は核兵器廃絶を永久に先送りするものであり、被爆者の願いを否定するものです。

昨年5月のNPT（核不拡散条約）再検討会議では、核保有国を含む加盟国が核兵器廃絶にむけ行動することで合意しました。今年の平和式典で、湯崎英彦広島県知事は、「現行の『核抑止論』にかわる新たな国際的安全保障体制の構築が必要」と主張。平和宣言を読み上げた松井一実広島市長は、世界平和市長会議が唱える「2020年までの核兵器廃絶」にむけ力を注ぐことを約束しました。核抑止力論から脱却し、期限を切った核廃絶の道筋を示すことは、日本と世界の共通した世論です。

首相発言に対し、長崎で自身も被爆し式典に参加した日本被団協の田中照巳事務局長は「近年、使われなかった『究極的』との表現をなぜ今、再び使うようになったのか。理解できない」と語ったように、被爆者らを落胆させ、核廃絶に向けた流れに冷や水を浴びせる態度です。

首相のあいさつ後、国連のドウアルテ軍縮上級代表は「検証された核軍縮こそが、国際平和と安全保障に大きく貢献するものであり、今すぐ遂行されるべきものです」「真に平和な世界になつてから着手されるべきものだ」という間違つた認識によって後回しにすべきではありません」との潘基文国連事務総長のメッセージを代読。菅首相の姿勢と対照をなすものとした。菅発言は、「唯一の被爆国の首相」としての資格が問われます。

2011年8月7日(日)「しんぶん赤旗」

核兵器禁止条約交渉直ちに世界大会・国際会議 宣言採択し閉幕

3日から広島市内で開かれていた原水爆禁止2011年世界大会国際会議は5日、核兵器禁止条約の即時交渉開始を求める宣言を採択し、閉幕しました。閉会総会には、国連の潘基文（パン・ギムン）事務総長代理としてセルジオ・ドウアルテ国連軍縮問題担当上級代表が参加し、事務総長からのメッセージを代読しました。（メッセージ全文、宣言全文）

宣言は、「『核兵器のない世界』をどう実現するのが、焦点になりつつある」と指摘。昨年第65回国連総会が核兵器禁止条約の締結を求める決議を採択したことなどを紹介し、核保有国をはじめすべての国の政府に、ただちに核兵器禁

東日本地震への

救援募金にご協力を

日本共産党は被災者の救済・支援のために、救援募金を呼びかけています。

【郵便振替口座】

0017017198422

名義は、日本共産党中央委員会です。

送金いただく場合は、振替用紙の通信欄に、かならず、「地震救援募金」である事を明記して下さい。「ご協力よろしくお願いします。」

磯城郡日本共産党議員団

止条約の交渉を開始することを求めています。一方、核兵器廃絶に向けた国際合意を実行することが求められているにもかかわらず、「ふさわしい前進が築かれていない」と指摘。背景に核保有国が「核抑止」政策に固執していることをあげ、あらためて「核抑止」政策からの決別を求めました。

宣言は、核兵器禁止条約の交渉開始を求める署名（「核兵器全面禁止のアピール」署名）など諸行動の発展。「核抑止」政策を打ち破る世論と運動の強化。被爆者への援護・連帯。あらゆる放射線被害者への支援強化と被害の根絶。原子力の軍事利用に反対し、原発依存からの脱却と自然エネルギーへの転換を求めるなどの行動を呼びかけました。

3日間にわたる国際会議のなかで、核兵器も原発も、放射線被害者を生み、恐ろしい「死の灰」をふりまく。どちらも原子力の軍事利用から出発しているという共通点が指摘されました。

国連総長メッセージ ドウアルテ氏が代読

潘事務総長のメッセージは、「私は、みなさんと同じく、核兵器のない世界の実現を希求しています」と強調。署名や声明、集会などを通じて、「みなさんは、世界で最も残酷な大量破壊兵器をなくすという、発展しつつある歴史的プロセスへ人々の参加を促しています」と述べています。

また「みなさんの行動は、今生きている人々だけでなく、みなさんが生み出した成果を引き続き発展させる将来の世代にも利する重要な事業です」とし、運動の発展に期待を表明しました。

ドウアルテ氏は、会場からの質問に答えるなかで、核兵器廃絶を求める運動について、「市民社会のなかで、核兵器がいかに惨禍をもたらすか、啓蒙（けいもう）、教育しているみなさんの活動に謝意と敬意を表したい」と語りました。

2011年8月6日(土)「しんぶん赤旗」



日刊●月2,900円
日版●月800円

2011, 8, 9 NO. 513

日本共産党

磯城郡議員団だより

和也 Eメール info@k-shiba.jp
西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415
吉田容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446
森良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570
(事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

放射性プルーム

福島第一原発の放射能のシミュレーションを裏はどこへ行ったのか？ 政付けるように、佐賀県や府からもマスコミからも大阪府、奈良県でセシウム報道はありません。

ところが、インターネット その時雨が降ると稲わらトで調べると、ノルウエー や土に沈着します。

気象研究所やフランス放射線防護原子力安全研究所などがシミュレーションの結果を動画で公表しています。

四月五日、放射性プルーム（塊）は千葉沖から西に広がり紀伊半島を横切り九州沖にまで達したあと、九州、四国、近畿、

再び紀伊半島にまで。このシミュレーションを裏

中国、北陸、朝鮮半島を巻き込んで東北、北海道を通り過ぎていきます。千葉や東京には何回も達しています。五月末には

田原本町議会議員
吉田 容上



広島・長崎

六十六回目の平和への誓いを固める日が今年も巡って来ましたね。六十年前の八月の六日と九日に広島と長崎に落とされた原爆の安全神話によつた原爆が、一瞬にして無事の命を奪い去り、今日もなお原爆症など、放射能の被害に多くの皆さんが苦しめられています。

これが核による被害の実態です。他の何者とも比較にならない異質の被害と惨害をもたらすのが放射能の実態であると言ふ事の証に他なりません。

原爆事故の起こった年の原爆の日に当たっては、きつと、多くの皆さんが人類と核との共存はあり得ない事を改めて認

川西町議会議員

芝 和也



納涼大会

6日、東屏風自治会の納涼大会が団地の東公園で午後5時から行われました。

初めに子どもみこしが、おやじの会と一緒に団地内を一巡することから始まり、今年も町内の各団体の協力をもらいながら、和太鼓演奏・子供などの太鼓体験（三宅町和太鼓勉強会）、石見文庫の大型紙芝居、三宅町内の民話紙芝居などが行われました。その後恒例の盆踊り、最後に福引抽選大会が行われ、午後9時に終了しました。

また、町のキャラクターである「みやつぱい」も参加し一役を買いました。模擬店として、金魚すくい、フランクフルト、かき氷、ビール、ジュースの販売を自治会が行い、輪投げ（和風会）お好み焼き（東屏風ソフトボール）、みたらし団子（葉茶芽茶会）、おでん（七夕会）、うどん（おやじの会）焼き鳥（ゴミゼロの会）など自治会内にあるサークルなどの店がだる絶好の機会となりました。



池田 年夫

姉からの手紙

私には三人の姉と二人の兄がいる。両親は他界したが私たち六人は皆、元気である。（と思う？）

先日、数年ぶりに八十八歳の姉（長女）から便箋二枚の手紙が届いた。それは、ついこの前、一枚のCDを送ったので、その礼だった。少し前、私は美空ひばりさんのデビュー当時のCDを買った。まだ幼さが残るひばりさんの歌声を聴いてみると十代、二十代の姉たちがこの歌を唄っていた姿を思い出した。実家の裏の谷川で洗い物をしながら、まるで水の音を伴うようにCD、MD、

「そうや、これ聞かしてあげたい！」と思い、翌日送ったらすぐ手紙が来たというわけ。「前略 先日は懐かしい歌声のCDを送ってくれてありがとう。私達の十代、楽しみもなく、只、ひばりちゃんの声に励まされて暮らしてきました」とあり、近況や丈夫な身体に育てて貰ったと、親への感謝などが綴られていました。

田原本町議会議員

森 良子

